

# 令和4年度

## 東京桑野会総会、懇親会

渡邊隆一郎

(八十一期)

令和2年、年明け早々 中華人民共和国の武漢市が発生源とされる新型コロナウイルス(武漢ウィルス)が世界中に蔓延し、我が日乃本も大きな影響を受けパニックが広がりました。発生の原因は今も闇の中ですが、東京桑野会の総会・懇親会もそこから感染者を絶対出さないと古川会長の厳命で、令和2年・3年度の総会・懇親会は中止と相成りました。

令和4年、今年の総会・懇親会は感染対策を施して3年ぶりの開催でした。

この間、会の重鎮役員3人が亡くなるという事態に見舞われました。会長の古川清氏(63期)、会長代理で弁護士齋藤英彦氏(69期)、副会長で画家の高松豊氏(74期)の悲報でした。

これまでの会へのご尽力に深く感謝し申し上げます、ここに謹んで哀悼の意を表します。

さて総会・懇親会は目白の椿山荘で、折からの雷雨も上がり、3年ぶりに開催されました。

参加者は来賓も含めて64名。例年の半分ではありましたが、全員指定席に座り、芳賀雅美氏(86期)の司会進行により総会が静かに始まりました。物故会員への黙禱に続き、校歌清聴、来賓の紹介となりました。来賓は安積高校校長鈴木芳人氏の代理として對馬俊晴教頭先生、安積桑野会から会長の安孫子健一氏(80期)副会長の笠間義裕氏(84期)校内幹事長の渡部正一氏(95期)安積歴史博物館の橋本文典氏(84期)をお迎えしました。

早速議事に入り、議長に副会長和田正哉氏(77期)を選出し、古川会長逝去に伴い空席となっていた会長の選出を行った。満場一致で浅川章氏(76期)が会長に指名された。幹事長も上石利男氏(80期)から石井俊一氏(82期)に引き継がれ事務所も銀座の石井綜合事務所が新たな東京桑野会の事務局となりました。よろしくお願いいたします。

浅川新会長は挨拶の中で、古川前会長の路線を引き継ぎつつも横の線と縦の線をがっちりと

組み合わせ東京桑野会を発展させたいと抱負を述べられました。

会務報告、決算予算報告、事業計画も無事承認され、着席のまま同会場で懇親会となりました。

懇親会は渡邊隆一郎(81期)が司会を担当し、まず浅川会長が挨拶に立たれました。

浅川会長は万葉集にあさかの名が語われていることをひき、全国の高校広しといえども、万葉集にうたわれる言葉を高校名にしているのは安積高校だけであり誇らしいと語り、東京桑野会の3つの約束をこれからも掲げて、会員全員で会を盛り上げていこうと熱く訴えられました。つづいて渡部良朋氏(91期)の乾杯の発声で会食となりました。今年はコロナ対策で着席のまま椿山荘特製弁当を食べながら、来賓の挨拶を拝聴いたしました。

安積桑野会の安孫子会長、笠間副会長とも古川前会長の遺徳を語り、いまさらながら前会長の業績をしのぶのでした。

校内幹事長の渡部氏からは校内事情や進学状況が報告され、県内屈指の進学校の実績はゆる

ぎないのだと会員納得の顔でした。また渡部氏は同窓会員の獲得のアイデアとしてSNS、YouTubeを活用したりしたいとの提言がありました。

参加者は小声で隣席者と会話する程度で、会は静に進行していきました。

大矢真弘氏（88期）の司会による新人紹介は慶応大学佐藤稜真君（132期）と中央大学鈴木寛貴君（132期）の二人です。たのもしき若手の発言に会場おおいに盛り上がりました。来年は社会人になってぜひ参加してほしい。女子紅一点秋山綾子君（119期）はいつも元気印。心臓マッサージ（ハートマッサージ）をする心臓にやさしく語りかけるとストレスもなくなり、ポジティブに生きられるとの話があり、年配会員おおいに納得の体でした。1時間というタイトな懇親会もあつという間にお開きの時間となり、来年の再会を誓って散会となりました。

返す返すも、少人数での開催となった総会・懇親会は寂しいものがありました。この時世では致し方なし。来年は大いに盛り上がりたいたい。校歌応援歌も大きな声で歌いたい。「武漢コロ

ナ」のバカ野郎と心の中で叫びつつもこの時期椿山荘は蛍が乱舞し、幽玄の世界を堪能したのでありました。

